

部活動指導員等配置事業費

参考資料 8

【目的】学校部活動において専門的な指導を教授できる環境を整備するとともに、教員の部活動指導時間等を軽減する

「部活動大阪モデル」の概要 (R5~R6)



【令和5年度：ステージ1】

◆ あらかじめ府で指定した82校41ペアが対象

ペア実現：土日・長期休業を中心とした合同部活動を実施

教員の負担軽減・生徒の技術力向上のため部活動指導員等を配置

ペア不可：実施できない課題を探り、課題解決に向けた支援を行う

令和5年度		モデル以外	大阪モデル
効果	部活動指導員による指導時間	16,720h	13,272h
	うち単独指導（削減時間数）	12,813h	10,663h

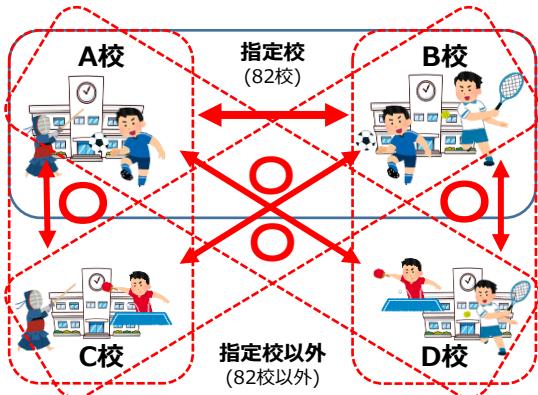
制度に対する課題



- 【学校からのヒアリング】
《ペアリングについて》
・既にペア校以外と合同実施中
・ペア校に部が存在しない
・ペア校が再編整備対象校
・在校生の男女比に差がある（商業と工業のペアなど）
《活動面について》
・指定どおりに合同部活動を実施すべくペア組んだものの、実際の活動を行うための調整が難航し、配置時間を活用しきれなかった。

【令和6年度から（ステージ1）】

◆ 指定校（ペア）を基本とし、指定どおりの合同実施が不可能な場合、指定校以外との合同実施を可能とする。



令和7年度方針

【現状】R6部活動指導員配置状況

令和6年度		モデル以外	モデル
予算	時間数	7,209h	42,640h
申請	校・部数	75校158部	73校171部
	時間数	40,526h	46,211h
配当	校・部数	48校60部	73校171部
	時間数	7,208h	41,874h
令和6年度		モデル以外	大阪モデル
効果	部活動指導員による指導時間	7,075h	38,544h
	うち単独指導（削減時間数）	5,873h	33,534h

- 令和6年度より、柔軟な運用と条件を緩和したことにより、学校のニーズと合致したこと、予算額（時間数）とほぼ同等の配当が実現した。
- 概ね予算額どおり執行する見込みであり、各校からは令和7年度もペアを継続して合同部活動を実施したいとの声が多く寄せられている。
- 一方、部活動指導員の配置による効果（削減時間数の増加）を高める必要がある。
- よって、令和6年度と同規模にて引き続き事業展開をし目的達成をめざすもの。

【R6実施アンケート結果(抜粋)より】※指定校(82校)及び関係校(82校以外)の校長、当該顧問・部活動指導員・生徒対象

Q. 合同部活動を実施してどうでしたか

«指定校：生徒»



«指定校：顧問・部活動指導員»



«関係校：顧問・部活動指導員»



Q. 平日放課後の合同部活動の実施について

«指定校・関係校：校長»



Q. 平日の放課後に合同部活動を実施したくない(できない)理由

- したくないわけではないが、終礼後に移動して部活動を行うことは活動時間の確保に難しさがある。
- 活動場所が限られている。
- 交通安全面の課題がある。
- 連携業務に負担感を感じている。
- 部員数の多さ。など